

「誰から聞いたの、その話」 ～「このころの扉」を少し開いてみませんか～

今年2月、店先に大きな文字で「マスク品切れ。入荷予定は未定」という貼り紙がありました。店内に入ってみるとマスクが並んでいた場所は、その言葉通りぼっかりと空いていました。新聞やニュースで見聞きしていたものの、大都市での出来事だろうと構えていた私には、身近で同じことが起きていることに驚かされました。

2月下旬には、トイレットペーパーも陳列棚から消えていました。この騒動の発端は、「マスクと原材料が同じで、トイレットペーパーも不足する」というツイッター投稿によるものでしたが、実際は原材料が異なるため情報はデマでした。社会が不安になっているときは、不安をあおるようなデマが広がりやすいと言われています。今回の騒動のように、私たちは予

測不能な出来事が起きると不安を払拭しようとするあまり情報に過剰に反応してしまいます。しかしその情報には、悪意のある情報もあれば、単なる推測や伝達過程で内容がゆがめられたものもあります。

新聞に「新型コロナウイルスが持つ2つの感染力」というコラムが掲載されていました。「ひとつは人にうつり、発熱や肺炎を引き起こす力、もう一つは人々の意識の中にもぐりこみ、人間社会に及ぼす底知れない力」そして結びに「病気の感染拡大は全力で防がなければならぬ。忘れてならないのは『第2の感染力』をどう封じ込めるか、一人ひとりが冷静に考えたい」とありました。

国境を容易に越えるウイルスと同様に、ネット社会にも国境はなく、デマも国境を越えて拡散してしまいます。誤った情報を増幅・拡散させな

いために冷静になり「その情報は本当だろうか」と疑問を持ち「その話、誰から聞いたの」と情報源を確認することが大事ではないでしょうか。